

(第2回)これからの大和町議会のあり方ゼミナール発表 まとめ

A グループ

◎こんな議会・議員はイヤだ

町の未来は平等な目で声を聴くようにしてもらいたい

◎理想の議会

時代の流れについていけるステレオタイプの考え方だけでなく新しいものを受け入れる、考え方や姿勢が大事

町民の意見が届くということ

イヤな議員にあった偉そうな感じや威張っていたり、特権意識があったりといったことがやさしさ、勉強熱心である事につながる

透明性は普段から活動が町民に分かったり議会で完結せずに町民に議会で出たものを公開までやってほしい。

多かったのが町民の声が届くということ、議会で決まったことがしっかりと町民に届くということはもちろん普段から町民の意見を聞くところ

「町民と対話する」というキーワードが良く出た。

B グループ

◎こんな議会・議員はイヤだ

態度として挨拶をしない方がいるや、目が笑っていないなど気づいた点がたくさん出た。能力として今しか見ていない、居眠り、何をしているか分からない、批判ばかり。

まちづくりでは生活しやすい、住みやすい、地域の問題を明らかにする、魅力あるまちづくりをしてほしい。

町の代表として意識して、予算、行政に対する指導、監督もシッカリしてほしい。

◎理想の議会

何をやったのか結果を分かりやすく教えてほしい。

透明性がある。HP にタイムリーに傍聴出来たり子供も興味を持てるような親しみやすさがある、敷居の低さが大切なのではないか。

革新的な意見として、実現は難しいが、毎日開催するや、町内会から 1 名選出するなどの意見があった。

◎理想の議員

イヤな議会の意見として議会の中でもギスギスしているのがあったので、仲良くしてほしい、腹の底から意見を言い合えることが大切。

議会の中だけでなく民間企業や町民全体の聞く耳を持つこと視野を持つこと広く交流することが大事

現状だけでなく、未来を見通す力や経験を通じて自分で調べながら行動することが求められている。

C グループ

◎こんな議会・議員はイヤだ

いろんなニュースに出る人。税金の無駄遣い。不正をした。
パワハラ、セクハラ、議員の立場をわきまえない人はマズイ

○町民は見ている聞いている

公約を見ている。リップサービスだけではなく、町民は記憶している。
議会中に寝ている人や議会を正当な理由なく欠席する人は基本として議員として有ってはならない。

○あなた偉い人

議員になったとたんに威張ってしまう。
人の意見を聞かずに知ったかぶりをしてしまう。
町民目線の物の見方を忘れてしまう方は中にはいるのではないか。
お葬式の指名焼香のときに名前を呼ばれるのが不思議。

○議会の仕事

条例、予算、人事の話をするところ
町民の要望を聞いて形にしていくところ
先進地の視察見学で情報収集をしたらそれを真似るとか活かして形に起こしてほしい。

◎理想の議会

○議会の構成・人間性

部落の代表ではなく全体の代表 偏りのない構成
人格的に優秀、正しく清い議員

○レインボーブリッジ(七ツ森と町民との懸け橋になる意味)

積極的に発言ができ、一人ひとりの意見が尊重される議会
言葉と行動がともなう議員 町民と行政の橋渡しをしっかりと

○ダンボな耳

町民と交流のある親しみのある議員
町民の意見を積極的に取り入れる議会
地区の意見が話しやすい議会
職員や町民の声が届いている議会
町民が話を聞きたいと思える議会
これからのまちの発展のために仕事をする議員
町の将来を導く活動力のある議会

○チャレンジ

無駄と必要を論ぜられる議員
新しいことにチャレンジできる議員

○テーマ以外

町民も参加できるような町民も議会の流れが分かるような議会であつたらいい。
町と共にいい意味で認知度のある議員がいい。

D グループ

◎こんな議会・議員はイヤだ

○実行力

実行力がない人

新しいことに取り組まずフットワークの重い人

○議員の姿勢態度

返事や挨拶の無い人、礼儀の無い人は議員にいたらイヤ

○議員の知識

仕事の課題や問題に疎い人や専門性の無い人

◎議員や議会は何をすところ

○住民との意見を集約すところ

一番多かったのは、地域の課題を見つけ、取り組んで解決する場が議会

意見を収集し発見する場

○行政の確認をする場

2 番目に多かったのが、予算がどう使われているか使い道は合っているのか、現行の制度でこのままでいいのかチェックする場

◎理想の議会

一番多かったのが地域の発展を考えてくれる議会が良い

個人的に理想の大和町を具体的に掲げてモデルになる年を全国から発見し研究して解決の政策を挙げていく議員が良い。現実的な解決ができるのではないかな。

最終的に

住民から尊敬されたりカッコいいと思われる存在が理想

なり手不足も解決していけるのではないかな。

河村先生から講評

皆さんの話を聞いてジャン＝ジャック・ルソー(1712～1778 フランス)を思い出した。
社会契約論。有権者の人は選挙の時は自由だが選挙が終わると奴隷になってしまう。と当時言っていた。

自分たちが望んでいない方がポツポツいるようだが、それを見て議会の評価が決まってしまうようなのだ。

注意しなければならないのは、今日の話で「だから議会は駄目なんだ」といってはいけない。木を見て森を評価してしまっはいけない。

嫌な人がいるが、その人を選挙で減らしていこうとしてきて今がある。

今は走っている過程になる。望ましくないものは少数派でも見えてしまうものである。

それで議会を評価しないこと。

ルソーの時代から2・300年は経っているので、議会や議員のあり方や認識も変わっている。選挙は繰り返し行われるので少しずつバージョンアップできる。

その時にどういった方向に行ったらいいか話題になって、理想が見えてくる。

議員は有権者の鏡である。

議員が選ばれるということは、そういう考えを持った方がいるということ。

議会を変えるだけでなく、有権者の意識も変えていかないといけない。

私たちは、議員が改革するだけでいいのではなく、議会へ働きかけるだけでなく、みんなの意見も変えていかないといけない。

前回の私の話で議員は意外とお給料もらっていない。住民とコミュニケーションが取れていない。

ステレオタイプや思い込みで見えていたり、木を見て森を見ていたり、考え方を変えていたら、気づきになってもらえたらいいと思う。

正解は、時代とともに変わっていかないといけない。それぞれの考えでもある。

大切な言葉で「寛容」がある。

人の話を聞かない思い込みは不寛容である。多様性に対する不寛容。

不寛容な議会を出来る限り減らしていく、本来の民主主義は、多様な意見を反映させる。

議会で話を聞くために多様な議会、又は、寛容な議会が求められている。

皆さんはそこに気づいて書き込んだのでポイントが高い。

有効性感覚も覚えてもらいたい。

「言ったら変わってくれた。議会ってあってくれてよかった」というのが有効性。

自分が発した声が形になったときの満足感は有効性を添わせていくことである。

それが最初から不寛容な議会だと聞いてもくれない。それだと有効性が下がっている。

1でも2でも聞いてくれ、自分が貢献できたと思えるこの会議も良いのかなと思う。

有効性のある議会にまとめられると思うので、寛容な議会、有効性が担保されている議会というのが話を聞いて思ったこと。